

第11期 令和6年度第2回日野市男女平等推進委員会 追加意見等一覧

委員会時間内に聴取しきれなかった項目について、期限を設けて追加意見を募集し、2名の委員より意見をいただきました。(2025/1/10×切)

項目	内容	No.	ご意見・ご質問	事務局の見解
1	体系図案作成に関する意見	1	日野地域未来ビジョン2030や、SDGs(Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development)では、2030年を行動計画の目標達成時期としています。 このたびの第5次日野市男女平等行動計画(2026年度～2030年度)については、これまでに積み上げてきた個別計画・事業の成果を生かしつつ、2030年度までの行動計画の達成状況を検証するために、現行計画を継承してアップデートやマイナーチェンジする位置づけでよいと思います。	現行計画を継承して作成できるよう検討いたします。
		2	現行計画は、市民が参加して行動計画の実行状況を評価する機会が設けられており、個別計画・事業の具体的な取組みや、担当課の自己評価を数値で知ることができて、可視化されているのは良い点です。 今後もそのような手法が継続されることを希望します。	第5次計画の評価方法を検討する際に参考とさせていただきます。
		3	現行計画の基本理念として「多様な個性が尊重され、誰もが等しく参画できる豊かな社会」が掲げられており、それは最近の言葉では「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)」と同じ意味です。 日野地域未来ビジョン2030(P.36)に、ダイバーシティ&インクルージョンの促進が示されているとおり、今回の改定では「多様な個性が尊重され、誰もが等しく参画できる豊かな社会(ダイバーシティ&インクルージョンの促進)」を基本理念に明記してはどうでしょうか。 日野市における、ダイバーシティ&インクルージョンを促進する役割を第5次計画に盛り込むことができれば、「省かれる人」や「支援が行き届かない人」を極力出さない方針で体系図および課題を作成するべきだと考えます。 また、行政においてダイバーシティ&インクルージョンを推進する体制も検討課題だと思います。	日野地域未来ビジョン2030ではダイバーシティ&インクルージョンと表記しておりますが、男女平等行動計画の基本理念として併記するかについては今後の参考とさせていただきます。 また、体系図や課題として盛り込むことについては検討したいと思います。
		4	現行計画の中で継承すべき項目と、時代や状況に即して新たに設定すべき目標とを分けて、作成していただきたい。目標・体系を全く新しく組み直す必要はないと思います。	現行計画を継承し、アップデートできるよう検討したいと思います。

項目	内容	No.	ご意見・ご質問	事務局の見解
2	課題に対する意見	1	基本目標1～3について、成果目標が達成されるように個別計画・事業を再度点検して見直すことが必要だと思えます。	課題といたします。
		2	基本目標4について、庁内の率先行動であるはずの成果目標が未達成であることから、日野市政では男女平等を推進する本事業の優先順位が低いのではないかと疑われます。「夙より始めよ」です。実行をお願いします。	課題といたします。
		3	男女平等推進センター「ふらっと」の(活動内容を含む)認知度を高めるために、愛称やロゴデザインを公募または日野市内の大学に協力してもらいリニューアルして広報してはどうでしょうか。 あわせて、対外的に情報発信する機会を増やすなど工夫が必要だと思えます。	認知度を高めることは大きな課題であると認識しています。 愛称・ロゴデザインのリニューアルは現在検討しておりません。
		4	男女平等推進センターを「男女平等ダイバーシティ推進センター」に改組することは検討されているでしょうか？ ホームページを拝見すると、女性センターが男女平等推進センターに変わり、平成16年4月1日開設と記載されています(平成16年は西暦2004年)。 https://www.city.hino.lg.jp/shisetsu/shiyakusho/desakli/danjo/index.html 現在の平和と人権課の係の名称には「ダイバーシティ」が追加されており、時代とともに行政が取り扱う対象範囲が広がっているのだと思われそうですが、センター開設から20年が経過して変化に対応することと、これまで以上に活動を推進していくための契機となるように、組織(名称)の見直しを意見とさせていただきます。 ※組織(名称)の見直しを課題にする場合は、前述の愛称とロゴデザインは同時に検討すればよいと思えます。	現在、検討しておりません。今後の参考とさせていただきます。
		5	「基本目標1」の「4多文化共生社会の理解促進と外国人への支援」については、男女平等推進行動計画からは外すとのことでしたが、女性の外国人技能実習生を対象とした性暴力やセクシュアル・ハラスメントが多発していることを考えると、むしろ課題に盛り込むべきだと思いました。 男女共同参画事業は、もともと「ジェンダー主流化」の概念の下、部署横断型の事業展開をすることになっていたはずなので、再度ご検討ください。	男女平等参画推進の目的に立ち返り、事業を精査していく必要があると認識しています。 外国籍の方に限らず、あらゆる性暴力・セクシャルハラスメントは当然許されるものではないとの考えのもと、暴力の根絶を目標とした施策・事業への反映を検討したいと思います。

項目	内容	No.	ご意見・ご質問	事務局の見解
		6	<p>「ふらっと」の認知度・利用頻度の低さを改善するために、センターの役割を見直していただきたいのですが、これについては、多摩地区の他のセンターも同様な問題を抱えているので、共同で考えていただきたいです。</p> <p>参考として、多摩地区の複数のセンターの知名度を調べてみました。以下はいずれも最新のアンケート結果で、数字はセンターを「知らない」と答えた人の割合です。</p> <p>日野ふらっと 7.2% ライツ国分寺 5.8%(女性74.8%、男性76.6%) 国立パラソル 7.4%(女性83.8%、男性93.1%) 清瀬アイレック 5.3%(女性28.8%、男性44%)</p> <p>国立パラソルが指定管理者によってあれだけ活発に事業展開しているのに、知名度がこれほど低いとは意外ですが、反対に、直営でも知名度の高い清瀬市のアイレックのようなセンターもあります。</p> <p>アイレックでは、単に情報発信するだけでなく、男女平等推進(性の多様性や包括的性教育、男女共同参画条例の普及などを含む)に関心のある市民グループを育てていて、そのメンバーが活発に動いています。また、毎年10月、二日間にわたってアイレック祭りを開催し、市民にセンターの存在を身近に感じてもらっています。さらに、2023年度からは市内の第七小学校で性の多様性を理解してもらうため、「フェスティバル・ザ・レインボー」も年中行事として実施しています。こうした点を、ぜひ学んでいただきたいです。</p> <p>男女平等(共同参画)推進センターの役割を再考すべき時期に来ていると言われて久しいですが、課題解決に真剣に取り組んでいる自治体が少ない中で、成果を上げているところも確実にあります。市の担当者の皆様は他のお仕事も抱えていらっしゃるの、なかなか思いうまいに動けないと拝察しますが、だからこそ、市民をうまく育てて、市民に積極的に動いてもらえるようにしていただきたいです。</p>	<p>認知度を高めることは大きな課題であると認識しています。</p> <p>令和6年10月に内閣府の「男女共同参画センターにおける業務及び運営についてのガイドライン作成検討に関する提言」が公開されたところです。</p> <p>いただいたご意見と共に参考とさせていただき、センターの在り方について検討していきたいと思っております。</p>
		7	<p>包括的性教育について</p> <p>これは、以前から私が市に導入をお願いしていることですが、その理由は、今の大学生を見ていると、小学校から高校までまともな性教育(ジェンダー平等や性の多様性、人権教育などを含む)を受けていないことが明らかだからです。国際標準から考えても由々しい事態ですが、国に改善は求められません。ですが、せめて自治体だけでも、進めていただきたいです。特に、日野市には日本の性教育の立ち遅れの原因を作った七生養護学校があります。かつては全国に先駆けて素晴らしい性教育を展開していた七生養護学校を擁する日野市だからこそ、できることがたくさんあるのではないのでしょうか。今一度、日野から新しい性教育を全国に広げて行っていただきたいです。</p>	<p>他市の取組等を調査研究し、日野市としてどのような取り組みができるか検討したいと思っております。</p>